

震災後3年、学校教育に、震災の教訓が生かされているでしょうか？  
地域・家庭・学校それぞれの立場の者がパネラーとして、  
自ら親でありマスコミで活躍中の落語家が「いっしょに話します」  
あなたも一緒に語り合いませんか。是非ご参加下さい。

## 震災3周年「市民教育講座」

### 「震災を契機として学校教育に望むもの」

コーディネーター 露の団六 (落語家)  
パネリスト 地域 渡部 吉泰 (弁護士)  
父母 桧原 実 (PTA会長)  
教師 池見 宏子 (小学校教諭)

1月24日(土) PM1:00 4:00  
私学会館(JR元町駅 北5分)

主催 「市民教育講座」実行委員会

後援 神戸市教育委員会



春休み子ども劇場 劇団コロコ公演  
まよいぬこのもり  
時：3月26日(木) 3時開演  
会場：シーガルホール(三ツ神戸駅南東徒歩7分)  
主催：「子どもたちに豊かな文化を」実行委員会  
後援：神戸市教育委員会  
申し込み：同実行委員会事務局  
(全教神戸書記局内 TEL391-7508/FAX391-8549)

全国から寄せられた義援金で、子どもたちによい文化を

全国から寄せられた義援金を元に行った「まよいぬこのもり」コンサート」の  
第2弾として下記のコンサート、「子どもたちに、豊かな文化を」実行委員会  
に参加した個人団体が企画準備しました。新しい半年に進級する時です。  
親子で楽しいときが過ぎますように。多くの方の参加を期待します。

#### 第3号…記事のお知らせ

- \* もりいさむさんからのメッセージ・・・p1
- \* 考えさせられた支援のあり方・・・p3・6
- \* 震災3周年特集・当時の子どもたちは今・・・p4・5
- \* 仮設を訪問した子どもたちからの便り・・・p7
- \* イベントなどのお知らせ・・・p8

被災地だより これ以上人災による犠牲者を出さないために  
強力な絆を避難所になった神戸の学校現場から全国へ

第3号 1998年1月17日発行

# 絆



全教神戸市教職員組合「絆編集係」  
神戸市中央区下山手通  
4・13・9中尾ビル3F  
TEL-078-391-7508  
FAX-078-391-8549  
〒振込口座番号 01170-7-29732

あれから3年経ちました。今必要なのは、まだ立ち上がれない人への思いやり、生きていることの大切さの再確認ではないでしょうか？そんなことを思い起こさせてくれたのは、港島地域「子育てネットワーク」主で年末に行われた「もり いさむコンサート」でした。大きな感動を下さったもりいさむさんから寄せられたメッセージと、取り組みを通して感じた「支援」のあり方について報告します。

## みんなちがって、みんないい と、感じられる世界を (もりいさむさんから のメッセージ)

### 1日目は、仮設訪問

昨年12月、神戸市中央区のポートアイランド仮設での交流(6日)、港島小学校で地域子育てネットワーク主催の震災復興コンサート(7日)では、とってもすてきな出会いをつくって頂き、本当にありがとうございました。

1年ぶりの神戸でしたが、ポートアイランド第3仮設のふれあいセンターには、部屋いっぱいに集まってくれました。金子みすずのうたを一緒にうたう等、とても楽しいひとときを過ごしました。

そして仮設に宿泊。寝る前に被災者の方々の生活の実情等を考えると胸の詰まる思いでしたが、交流の時「ありがとう」と言って、後ろからそっと抱きしめてくれたおばあさんの声。「また来年会いましょう」と話してくれた方々の顔がよみがえり、何とか眠ることができました。

### 2日目はコンサート

7日は港島小学校でのコンサート。最高でしたね。広い体育館でしたが、子どもたちを前にして恥ずかしそうにうたうお母さん。子どもたちもよ

かった。素敵で、最後には全員のってうたってました。

そして大人の方からではなく子どもたちから「もりさんのサイン会」と言って並んでくれました。ありがたい子どもたち、ありがとう地域子育てネットワークのみなさん。



今、「金子みすずの世界をうたう、もりいさむ」(仮)のドキュメンタリーが、KRYテレビ(日本TV系)で制作中です。ラジオでもコンサートの中でも震災の実情について話しています。

金子みすずの詩「わたしと小鳥とすずと」の中で「みんな違ってみんないい」と、歌っています。

たった一つしかない命、違うから素晴らしいのですね。一人一人そのまま。相手をお互いに認めあい助け合ってこそ、命を大切にできる道です。私たちは地位や名誉、お金や物のために生きているのではありません。命の再生産。子どもたちと共に生きているのではないのでしょうか?金子みすずさんの詩心を飾りにするのではなく、本当に心から「みんなちがってみんないい」と感じられる世界を一緒に作りたいたいものですね。どんなにつらいことがあっても。また一緒にうたいましょう。

1998年1月 もり いさむ

もりいさむ



金子みすずの世界を歌う、もりいさむ(シンガーソングライター)プロフィール

郷土の童謡詩人金子みすずの詩に感動し、曲をつけ、歌い続けて10年以上になる。現在金子みすずの詩「わたしと小鳥とすずと」が小学校3年の教科書に登場するなど、心のあり方が問われる時代に確実に歩みながら歌い、様々なイベント等の活動を続け、大きな話題と感動を広げている。連絡先「もりいさむの事務局」Tel(Fax)(0836-83-8127)

#### データーで見る被災地の現状(現在)

仮設での孤独死(1・7)190人

(7440~60歳代が全体の7割)

仮設住宅の要援護者(97年12月・神戸市)

(痴呆性老人129人・寝たきり156人)

心身障害者335人

#### 仮設に残っておられる方の心境を歌う

愚痴めきあい

慰め合って飯の居の

愚んだ人は

行きて帰らず

## 考えさせられた支援のあり方

(自分たちの問題・今後の日本の問題・子どもたちの未来の問題として)

「港島」地域で、昨年末に行われた2つのイベントを通して、今なお物理的にも精神的にも被災の傷が癒えない人たちへの支援のあり方を考えさせられました。

### (その1) 事前に、イベントのチラシを全戸配布する中で

「もりいさむコンサート」のイベントの主催団体「子育てネットワーク」の1団体である全教神戸市教職員組合の私たちも、イベントが行われる前日、そのお知らせのチラシをポートアイランドの仮設住宅に全戸配布しました。学校の勤務が済んだ頃には、仮設住宅の中はすっかり暗くなっています。明かりのついていない家、郵便受けにお知らせがたくさん溜まっている家が増えていました。仮設住宅から新設の災害復興公営住宅への転居が進んでいることがうかがえました。そのため以前にも増して、まわりは一層暗く、寂しくなり、ぶっそうな環境になっていました。

ところどころ明かりのついていない家では、ちょうど夕飯の支度時間です。私が郵便受けにチラシを入れる「ポトン」というかすかな音でも、戸を開けてくれました。

「小学校でのコンサートです。是非きて下さい。」と声をかけると、待っておられたようにいろんな話をしてくれました。私たち子育てネットワークの者は、こんな言葉の交流に

支えられて5000枚のチラシを配り終えることができたので、

当日の会場準備も地域の方々と行い、約200名の地域の方々が「もりいさむさん」と楽しいひとときを過ごしました。しかし仮設住宅から来られたかどうかの確認はできませんでした。(前述のもりいさむさんのメッセージにも述べられているように)もりいさむさんは、コンサートの前日、仮設住宅の集会所で、老人のみなさんのために、特別にミニコンサートを開いておられたのです。そこでたくさんの老人の方々が、久しぶりに大きな声を出して、一緒に歌い、楽しく過ごされていました。

私は、チラシを受け取って下さった仮設の人たちの顔を思いうかべながら、震災復興のイベントは、「仮設住宅に出かけて行ってその場で」ということが大切だと感じました。それと同時に前日、チラシを配りながら、仮設の人たちといろんな「会話」ができた事も大変貴重な機会に思えました。港島小 村山 勇

(その2はP6に続く)

あれから3年を経て

# 当時の子どもたちは、今

「学校防災」(神戸からの提言)

執筆者から寄せられた手記より

震災時、保育園に通っていた子どもたちも、今は……

社会福祉法人 ポートピア保育園

朝倉ユミ



私が震災の時に担任していた子どもたち、当時ちょうど一年生になる前だったので、今は3年生になっています。民間保育園の保育の特権で転勤がないので、子どもたちの登下校の姿から、今の状況が外面的にでも見るこ

とができます。3年生になった子どもたちは、保育園に訪ねてくることも少なくなり、だんだん関わりも少なくなってきた事からも、表面的にはほとんど心配なく、今の生活に満喫しているように受け止められます。そんな子どもたちが、震災の時のことを胸を張って話してくれたのです。それは、震災後

アメリカに行ったメリッサちゃんが、97年の6月に1ヶ月ほど日本に帰って来た時です。キリン組だったみんなと再会した時でした。みんなはあの時、仕事に夢中だった私の代わりに、一人暮らしのおばあちゃんの水くみをしてくれた卒園児たちでした。一生懸命頑張った仲間の中からは生き生き話せたのでしよう。メリッサちゃんは、アメリカ人のダイナミックさをしっかりと吸収し、日本語も英語もしっかり習得していました。

京都の福知山に引越したゆうや君も元気に過ごしているようです。その場所がとても彼に合ったんだと思います。そしてその背景には両親が2人仲良くお店を再開し、母親から私宛に届いていた手紙が途絶えたことから生活が安定した事が伺われます。私の写真のキーホルダーを大切に持っていて、うれしくなりました。

「整さばりたいから9時まで先生のところに居させてー」「いいよー」の一つ返事で3時間ほど2人で過ごしました。後にも先にもこれ一回限りで、2人の秘密です。彼女の震災時の話を初めて聞きました。私の話もしました。彼女の父親は出張中、母親は看護婦。「姉妹で祖母のところに行かされた(子どもの立場から)」という思いをずっと抱いていた事がわかりました。

彼女は今は楽しく私学の、中学校に通っています。

あれから3年がすぎようとしている中で、深まった人と人との絆はより一層深まり、溝ができた人間関係は相変わらずのようないきまします。それは一番身近には「家族」「職場」「学校」「仲間」「友達」等……その事についてあれからズットと考えています。

大人の私でも、震災の時のことを思い出すと、まだ涙がでたり、もどしたりします。

当時のことを聞いてもらえず我慢している子どもたちがまだまだいます。子どもたちの心の傷のケアは今からこれを一生背負っているのは大人も子どもも同じ。大人の限界もすでに超えているかも知れないと思うと、子どもたち自身が乗り越える力を、乗り越えられる環境を、子どもたちと一緒に作っていかなくてはと思っています。

(当時 小田 ユミ)

## 高校卒業生に根付く「ボランティア」の精神

守り育てるのはわれわれ教師。

兵庫高校

教諭

鈴木 譲



あれから丸3年、震災直後の春に入学してきた五十回生がまもなく卒業を迎えようとしています。鈴蘭台西高校での分校仮設生活を経験した彼らが卒業すること、兵庫高校の震災史も幕を下ろそうとしています。

たしかにもう3校舎とその周辺には大震災があったことを物語る痕跡すら見つかることはできず、生徒たちの意識からもそれは消え去ったように思われます。とりわけ彼らの大半が被害の少なかった

北区の住民であることを考えると、それは当然と言えるかも知れません。

ですが、学校周辺には空き地、更地も目立ち、何より生徒たちのたまり場であった室内商店街の消滅は、厳然とした被害の厳しさを、昔からの兵庫高校を知るわれわれには、いやでも教えてくれます。

「体験を風化させるな」ということがよく言われますが、決して貴重な教訓が無駄になつたとは考えていません。

現に、わたしの教える子の中には、NGOのボランティアとして、東南アジアに向かった者が2名いますし、日常的に街頭募金などに参加している子も複数名知っています。

「ボランティア」という言葉は、官製の押しつけ以前に、卒業生の中に根付いていつているようで、頼もしく感じられます。

そしてその種子を絶やさず守り育てていくのはわれわれ教師の役目、と気持ちを新たにしているところです。

(その2)

餅つき大会でも、聞かされた切実な声…

ポートアイランド第三仮設住宅で行われた年越し餅つき大会では、「コープ神戸」の人々や私たち小学校の教師がボランティアとして参加しました。仮設住宅に住む人たちで参加できるのは元気な方だそうです。実際ベンチで、つきたての餅を食べている住民は15人位でした。後は、餅をバックに入れて、取りに来た人に渡すか、各戸へ配り歩くのだそうです。そのベンチでの話題もこのほど行われた公営住宅への募集に落選した話ばかりでした。ほとんどの人は震災前に住んでいた所へ戻りたいが、市街地は競争率が高く難しいとの事でした。私は餅つきで痛くなった肩をさすりながら、ただ話を聞くだけでした。そんな話を聞く中で、今も大変な被災者の思いや状況の、ほんの一部でも伝わってきました。

集会所には、それまでに仮設住宅へ支援をした様々な団体の活動の様子が掲示してありました。私はふと震災直後、全国から送られてきたあふれるほどの「励ましの手紙」を思い出しました。どの学校も、返事やお礼を要求される「励ましの手紙」の処理に苦慮した実体はそれほど知らされていないのではないでしょう

か?あれほど続いた「励ましの手紙」が今は途絶えました。もう震災は忘れられたのでしょうか?

3年が過ぎようとしている今も、仮設住宅に約2万人以上の人々が住んでいるのです。支援は途切れることなく、継続してほしいのです。

「自分たちは見捨てられたのではない。ずっと温かく見守ってくれる人がいる。」と感じられる事こそ、生きる希望であり、勇気なのです。震災直後の流行のような「励ましの手紙」はなくなりましたが、その後しっかりとした被災者の物心を支える支援活動は続いています。日本の各地から様々な団体個人が我が事として息の長い支援をして下さっているのはうれしいことです。(修学旅行などに位置づける学校も増えています)

2つのイベントを通して、現在の被災者の実態を思う時、本当の支援はこれから…。そしてその事は、誰かに言われてするものではなく、被災者だけの問題でもなく、「自分たちの問題」そして、「今後の日本の問題」、「子どもたちの未来の問題」である事をわかってほしいとつくづく思いました。(港島小・村山勇)

おおにさんへ  
お元気ですか。サッカーで大会が二回あって、二回とも優勝しました。ほとんどのポジションは、ホフドでいはい点をとりました。とてもうれしかったです。あとぼくたちのチームのクラブチームが、あつて全国で二位になりました。すこーとおもしろいよ。なにかしやみがあるといいですね。ちやせんのは、かどうでしたか。手紙おこってください。

長谷川 直也(6)より



P.S.  
かとうとびんせんを送ります。お返し下さいわ(セキキもはいります)それでは、また古畑典子

お元気ですか? わたしは、合かわらず元気です。どんどん寒くなってきましたね。かせをひかないように、体に気をつけて下さいね。ところで公営住宅の抽選のけっか、どうでしたか? 今度、手紙でおしえて下さい。また手紙書きます。それでは、お元気で。



\* 大阪門真市立第六中学校の

子どもたちからの郵便り

元気ですか? 神戸の方は、だいぶん寒くなってきましたね? 大阪もめ、ちや寒いです。寒くな、たり、靴(カ)がザルくな、てきいます。でもみんなんしてたら、アヤニ、ばんばん書きます。だから大西さんちばん、てくさい。返事も書けたら書い、てくさい。まーます。

おしえて下さい!!  
29. 16